

嶺北中央病院 派遣報告

宮本敬大

勤務概要



- 月～金：午前8時30分から午後5時15分まで
- 火曜 午後5時から新患カンファレンス、抄読会
- 金曜 午前8時から全患者カンファレンス
- 常勤医 内科 6名、外科 1名、整形外科 1名



整形外科 藤岡一平 先生



外科 市川純一 先生

検査室



- 検査技師 3名
- 日勤帯の検査 (血算・生化・細菌検査など)
- 当直帯、休日は電話相談可
- グラム染色の質問など気軽に答えてくれます。

薬剤部



- 常勤薬剤師 1名（1名は産休中）
- 院内の調剤だけでなく、診療所にもっていく薬剤の準備も。
- お一人で忙しいですが、いろいろ相談に乗ってくれます

業務内容

- 平成27年2月1日～平成27年5月31日まで
 - 外来
 - 病棟
 - 検査(腹部エコー・上下部内視鏡)
 - 診療所
 - 当直

外来業務

- 外来担当 月・午前、木・午前、金・午前
- 午前 3診（1診、2診、5診）、午後 2診（2診。5診）
- 予約診は基本的に午後の1枠のみで派遣医師は担当なし
- 初診患者や発熱患者、緊急性が高い患者が主な担当（定期受診もあり）
- 消化器からの派遣であり、腹部症状や出血の疑われる患者を優先的に
- 1枠で10-20人くらい
- 救急担当日があり、その日は救急車対応
- 4月終わりくらいから畑仕事(田植え)があり、受診患者数自体が減る

外来業務



病棟業務

- 外来で入院を決定した医師が主治医
- 6-10人くらいの担当(急性期のみ、療養型に移った患者さんは常勤医へ引き継ぎ)
- 2月～4月までで42例の患者を担当（年齢 23歳—100歳、平均 78歳）
- 慢性心不全急性増悪、肺炎、急性腎盂腎炎、顔面帯状疱疹、脳梗塞といった一般的なものから出血性十二指腸潰瘍、虚血性腸炎、切除不能直腸癌など消化器疾患なども担当
- 発熱性好中球減少症（外来血液・消化器ケモ）などの担当もあり。

病棟業務



検査業務

- 腹部エコー 3-4例/月
- 上部消化管内視鏡 6-8例/月
- 下部消化管内視鏡 4-6例/月
- 検査日は特に決まっておらず、空いた時間に検査を行う

- 常勤の医師全員が腹部エコーおよび上部内視鏡施行可能で件数は少なめ
- 下部消化管内視鏡は佐野院長、川村副院長（離職した医師1名）及び自分が施行

検査業務



診療所業務

- 派遣2か月経過してから開始
- 大川村小松診療所 毎週 水曜午前
- 黒丸診療所 第2週 水曜午後

大川村小松診療所



- ・ 診察 5-10名 定期受診
- ・ 予防接種（乳児・幼児も含む）
- ・ 健康診断
- ・ レントゲンは自分で設定して撮影

黒丸診療所



- ・ 診察 5名 定期受診
- ・ 公民館を利用して診療を行う
- ・ 嶺北中央病院から車で1時間

当直業務

- 月に4～6回 （日当直を含む）
- 一般内科から小児、外傷なども診察
- 0-12名程度の診察。夜間のwalk inは少なめ
- 救急搬送も場所によっては救急隊が山道を登って連れてくるので1時間以上かかることも（「CPAが1時間後に来ます」とかもある。）
- 外傷など自信が無い分野は必ずオンコールで常勤医が待機しており、診察・相談できる
- 3次救急は高知市内の病院に搬送（日中はドクターヘリも利用可能）
- 循環器（特に冠動脈疾患）はホットラインがあり、速やかに転送可能
2例のACSを転送して速やかに救命してもらった

総括

- 一般的な内科診療、小外科の知識などが必要。
- 嶺北地域に総合・救急病院は「ここしかない」という気概をひしひしと感じた。
- 見たことも行ったこともない場所での生活と診療だったが、人に恵まれて無事4か月を過ごすことができた。
- 自動車が無いとかなり不便だが、何とか生活できる。